



楽しいと知った「SNS」の世界

最近、電車の中などでよく目にするのが「スマートフォンで、ツイッターやフェイスブックなどの書き込みを夢中で読む」人たちです。私はいわゆる「ガラパゴステイ」持ちですし、アプリだのSNSだの全く関心がないタイプでしたので、一体、どうしてそんなものに夢中になっているのだろうと、不思議にすら思っていました。

私は元々、パソコンからモデムを使ってインターネットに接続したのが1996年、自分のホームページを作ったのが97年でしたので、割と早いうちから積極的にネットワークを活用しようと動いていました。ところがどうも、人と関わる…という部分、例えば「掲示板」などに対してはあまり気が進まず、結局一回も設置したことがないのです。

というのも、インターネット開始以前に参加していた「パソコン通信」の、テーマ毎に集まる「会議室」というのに書き込みをよく行っていた際、ともしつこい人が私や他の人にけんか腰で絡んで来て、大変迷惑したことがあったからです。結局、間接的な通信の場ではあるけれど、その向こうにいるのは「人間」なのだ。

だから、

よく知らない相手と気安く交流したり、信用し過ぎたりしてはいけないのだ…。そんな「教訓」が染み付いてしまったのか、インターネットに移行してからも、掲示板をはじめSNSへの参加などに積極的になれずにいた、というわけです。

そんな中、知り合いの勧めで7月から「フェイスブック」を始めてみました。このSNSは実名登録が基本ですので、まずは実社会での友人や会ったことがある人とフェイスブック上でも「友達」になり、自分の情報も彼らとの間だけに公開するようにすれば、やや閉鎖的ながら小さなコミュニケーションのネットワークを構築することが可能となります。それに加えて、他のSNSのように訪問記録のようなものが付かないため、ある種の“煩わしさ”がないのも魅力の一つ。そうした安心感が、やっと私の目の前にあった「ハードル」を下げてくれました。

また、興味のある企業やブランドのフェイスブックを「いいね」と指定すれば、情報が更新される度に自分の「ニュースフィード」というエリアに自動的に送り込まれて来るので、おトクな最新情報を受け取ることもできます。…なるほど、SNSを夢中で見ている人たちは、こうした楽しみも知っていたのですね。

ネットワークの世界は、実生活の中で目に見える存在ではないだけに、関わらずに過ごそうと思えばもちろん可能でしょう。しかし上手く利用しようと思えば、実生活をさらに楽しくしてくれる可能性があるのかもしれない。何でも、やってみないと解らないものです。食わず嫌いの私ゆえ、まだまだフェイスブックは活用し切れていない機能も多いのですが、しばらくは自分なりに楽しんでみようと思っています。

じんぼう・みか

法政大学卒業後、文具メーカー勤務を経て業界誌記者となり、1993年独立。

取材記事、コラムなど連載。近著「パチンコ年代記」（バジリコ、07年）

